

平成 27 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	共鳴誘導で革新するバイオイメーjing
領域代表者	宮脇 敦史 (独立行政法人理化学研究所・脳科学総合研究センター・チームリーダー)
研究期間	平成 27 年度～平成 31 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、生命科学の発展に必須なバイオイメーjing技術について、より適用範囲の広い革新的なバイオイメーjing技術の実用化を目指すものである。新学術領域研究「細胞機能と分子活性の多次元蛍光生体イメーjing」(平成 22～26 年度)の成果の上に立脚し、技術革新を目指して、これまで当該分野の発展を牽引してきた異なる専門分野の第一線の研究者を中心に組織されており、格段の発展が見込まれる。また、本研究領域により開発されるイメーjing技術は、医学・生物学等の研究分野への波及効果も期待できる。</p> <p>領域組織は、異なる広い範囲をカバーするイメーjing技術を開発する研究者により構成されているが、生物学的興味が重なるような研究対象も設定するなど、計画研究間の連携を深めるための工夫がなされている。また、イメーjing技術開発者とその利用者の距離を縮めるための計画も含まれており、評価できる。</p> <p>本研究領域は我が国の生命科学の牽引を期待される領域であるが、一方で、バイオイメーjing技術の開発とその普及だけではなく、技術開発によりどのような生命現象の解明を目指すのかを明確化し、医療応用など応用面でのブレークスルーにつながる道筋も示すことが望まれる。</p>